

発掘!!

滋味スゴ銘柄

KHネオケム

空調潤滑油原料、世界シェア過半

KHネオケム(4189)はエアコン向け潤滑油(冷凍機油)の原料を手がける中堅化学メーカーだ。オゾン層を破壊しない冷媒「代替フロン」を使用するエアコン(室外機)のコンプレッサーには特殊な冷凍機油が使われるが、同社はこの分野の原料



三重県四日市市に冷凍機油原料のプラントを増設した

で世界シェアの過半を握る。前身の協和発酵ケミカルは2011年に協和発酵キリン(現協和キリン)グループから独立。12年に現在の社名に変更した。世界的な環境規制の強化が、現在の同社への追い風となっている。オゾン層を破壊する特定フロンの規制後、代替フロンも温暖化への影響の大きい18種類が新たに規制対象に追加された。19年に発効した国際的な取り決めである「モントリオール議定書のキガリ改正」では、先進国は代替フロンの生産・消費量を二酸化炭素(CO₂)換算値で24年に11~13年比で40%、29年に同70%減らすことが義務付けられている。

このため、先進国では環境負

《KHネオケムの概要》

▽代表者	高橋理夫社長
▽主な事業	化学品の製造・販売
▽設立/上場時期	1966年11月/2016年10月
▽市場区分	東証1部
▽時価総額	1166億円(3日時点)



荷の大きい代替フロンから小さい代替フロンへの置き換えが進行中。さらに新興国でのエアコン普及をにらみ、KHネオケムは冷凍機油原料の増産体制を整えてきた。20年には三重県の工場に新プラントを設け、生産能力を5割高めた。

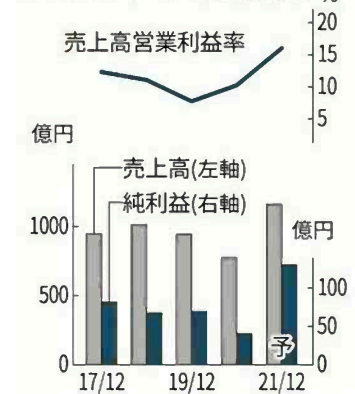
こうした施策が実を結び、冷凍機油原料を含む機能性材料事業の21年1~9月期の売上高は前年同期比46%増の310億円、営業利益は98%増の70億円だった。エアコンの販売もコロナ禍

前の水準に戻りつつあり、21年12月期通期の連結営業利益は185億円と17年12月期の最高益(114億円)を上回る見込みだ。

同事業では化粧品原料も手がける。美容液やフェースマスクに使う保湿剤は抗菌性と低刺激性を持ち合わせ、アジア市場で販売を伸ばしている。

半導体向けの需要が旺盛な電子材料事業も順調に推移する。21年1~9月期の売上高は前年同期比22%増の102億円、営業利益は91%増の23億円。フォト

KHネオケムの連結業績%



レジスト向けの高純度溶剤がけん引役となっている。

原料価格の高騰や自動車の生産動向、中国の景気の行方など懸念材料は多いが、ニッチな化学品で成長市場を取り込むという基本戦略にはブレがない。

(石川雄輝)

2021年12月5日 日経ヴェリタス 18面 (C)日本経済新聞社 無断複製・転載を禁じます。
許諾番号30085324 日本経済新聞社が記事利用を許諾しています。